救急法講習会

6月17日（土）13：30～青葉区役所 401会議室

今年も青葉消防署に協力いただき1、2部合わせて59名の青少年指導員が、救命処置の実習を行いました。

【救急法講習後のアンケートより】

- 消防署員や消防団員方の熱心な指導で、楽しく学べた。
- 心肺蘇生の練習で勇気と自信が持てた、来年も参加したいと思った。
- 操作方法は少しずつ変更されているので、定期的な復習と参加の重要性を感じた。

【AEDの重要性】

- 心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、時間の経過とともに低下しますが、そばに居合わせた人が救急処置を行うことで低下はゆるやかになります。救命処置では、胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAEDによる電気ショックを行います。
- 心停止が発生した場合、AED（自動体外式除細動器）をできるだけ早く適切に使うことで、社会復帰率が2.4倍向上します。（救急車が通報から到着するまで、平均で約9分。⇒ 救命の可能性は低くなってしまいます。）

全市一斉パトロール

夏の夜のパトロール。

昔は成人向け図書のチェック、屋外で集っている若者への声掛けがあったそうですが、今は行儀の良い時代になりました。

受持ちの公園、コンビニを廻って集合場所へ、恒例の集合写真を撮って解散します。

読者アンケートのお願い

本誌（seishiAOBA）の読者の皆さまにアンケートを実施しています。ご回答いただいた皆様に抽選で景品もご用意しています。
詳細は**右記二次元コード**から
WEBページにアクセスください！

表紙のクイズの答

11校※。関係者各位の皆様、おめでとうございます。

※港南区：芹が谷南小、旭区：川井小、不動丸小、磯子区：洋光台第三小、金沢区：西柴小、西富岡小、港北区：駒林小、矢上小、都筑区：荏田小、戸塚区：深谷小、瀬谷区：大門小

広報部員紹介

加藤 誠 ／ 鈴木 秀幸 ／ 松本 勝美 ／ 内野 慶久 ／ 横山 真也 ／ 金平 昌幸 ／ 松本 洋一
岡田 静乃 ／ 扇原 剛 ／ 磯部 明宏 ／ 花野 年秀 ／ 古石 吉秀 ／ 三笠 貴彦

青指あおば50号　発行／青葉区青少年指導員連絡協議会　令和5年10月発行
事務局／青葉区こども家庭支援課学校連携・こども担当　電話 045(978)2345　FAX 045(978)2422

青葉区青少年指導員広報誌

第５０号　令和５年１０月発行

seishi AOBA

YOKOHAMA YOUTH MENTOR
横浜市青少年指導員シンボルマーク

青指あおば50号特別企画

水沼（みずぬま） 宏太（こうた）　選手

横浜F・マリノスに所属。ポジションはミッドフィルダー。
青葉区の荏田西小学校、市ケ尾中学校出身。
あざみ野FCでサッカーを始め、横浜F・マリノスを中心にJリーグ各クラブで活躍。
2022年には日本代表に初選出された。

◆サッカーを始めたきっかけを教えてください。

プロサッカー選手だった父（日本代表や横浜マリノスで活躍した水沼貴史 氏）の姿を見ていて、私もサッカーをしたいという思いに自然となりました。

◆小さい頃のサッカーの一番の思い出はどのようなことですか。

あざみ野FCというサッカーチームで、最高の仲間と出会えたことです。その仲間たちのおかげで、きつい試合や練習を乗り越えることができたし、サッカーがずっと大好きでいられたのだと思います。

◆少年時代に一番影響を受けた人は？どんな人でしたか？

父です。小さい頃から「宏太の好きなように、宏太らしく」という言葉をかけ続けてくれて、今でも言われることがあります。その言葉があったおかげで今も頑張れていると思うので、父にはとても感謝しています。

◆もしサッカー選手になっていなかったら何になりたかったですか？また、それはなぜですか？

©1992 Y.MARINOS

保育士です。

こどもが大好きだからです。中学生の時に体験学習か何かで保育園に行き、とても楽しかった思い出が今でも残っています。

◆サッカー選手を目指すにあたって、青少年に心がけることを3つ挙げるとすると？

一つ目は、夢や目標を常に持ち続けることですね。二つ目は、その夢や目標を叶えるために、どんなことがあっても絶対にあきらめないでやり続けることです。そして三つ目は、家族や仲間を大切にして感謝の気持ちを持つことですね。

◆夢を叶えるためにしていること、ずっと継続していることは何ですか？

自分の体を大事にすることです。それと、自分の周りの人たちへの感謝の気持ちを忘れないということですね。

◆最後に、横浜市青葉区のこども達にメッセージをお願いします。

青葉区は緑が豊かですごく住みやすく、私も大好きな街です。これからもずっとそんな街であり続けるために、みんなでチカラを合わせて頑張っていきましょう！また青葉区から日産スタジアムまでは近いので、横浜F・マリノスの試合を観に多くの皆さんがかけつけてくれると嬉しいです。そして青葉区のみなさんに「観に来てよかった！」と思ってもらえるように私ももっと頑張ります！

青指あおば 第50号クイズ

青指あおば50号にちなんで！ 今年50周年を迎える市内の小学校※は、何校あるでしょう？

※昭和48年（1973年）創立の小学校

青指あおば50号特別企画　青葉区と関わりのある方や地域で活躍されている方々に日々の活動についてお話を伺いました。

青葉区民マラソンアンバサダー 元プロマラソンランナー
有森 裕子 さん

◆今どんな活動をしていますか。

日本陸上競技連盟の副会長や、「スペシャルオリンピックス日本」（知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織）の理事長を今年の3月までやっていました。今はユニファイドスポーツ®（知的障害のある人とない人が一緒にスポーツをするための取組み）のスペシャルオリンピックス日本ユニファイドスポーツ®アンバサダーとして活動しています。

また、1998年のアンコールワット国際ハーフマラソンへの参加をきっかけに、主にカンボジアを支援するハート・オブ・ゴールドという団体を立ち上げました。小学校・中学校・高校等で体育の授業をできるようにするなど、スポーツや教育をとおした人材育成、自立支援活動を行っています。

◆こどもの頃の夢は何でしたか。

小学校の時は、『長靴下のピッピ』が好きで、空を飛びたかったです。 小学校を卒業する時には、体育の先生になりたいと思っていました。ちょっとダメな生徒だった自分を元気づけてくれたのが体育の先生でした。父が学校の先生だったこともありましたが、お勉強ができるようになりたいというより、自分の得意なもので勝負できたらいいなというのが夢でした。

◆青少年と関わることで感動したことや発見したことがあれば教えてください。

こどもたちのスポーツキャンプをやっているんですが、こどもは能力に関わらず、一生懸命やります。そして、一生懸命やるなかで、いろんな気づきが生まれ変化していく。そんなこどもたちを通して、人間の無限の可能性や面白さを教えてくれる。大人の方がこどもから学ばなきゃいけないことがたくさんあります。小学生も、大人が思う以上に繊細だし、難しい。

基本人間であるということをベースに、私はどの世代にもぶつかっていますね。まず、私はこうだというところを見せた上で、そのこどもたちの反応をみて、どうすべきかを考える。自分の本音でぶつかるようにしています。

◆最後に、青葉区の青少年に向けてメッセージをお願いします。

自分が何かにチャレンジしようと思ったら何か必ずそのチャンスはつかめる。そしてつかんだら、できる限り、一生懸命チャレンジしてほしいなと思います。自分の知らない自分を発見する楽しさにどんどん触れてほしいし、失敗を恐れずにやってほしいなと思います。

神奈川県立市ケ尾高校 ダンス部顧問
山口 太平 さん

◆今どんな活動をしていますか。

ダンス部顧問として、生徒が最高に『青春』できるようお手伝いをしています。技術指導や生活指導はもちろん、市ケ尾高校ダンス部は全国大会7年連続出場の強豪校ということで、イベントやメディアへの出演依頼も多くいただいているので、芸能人のマネージャーのような仕事もしている感覚です。

◆やりがいや感動したことを教えてください。

生徒が『青春だな』と感じられる思い出を量産することにやりがいを感じています。生徒は経験したモノの数や種類、関わる人の数が増えれば増えるほど、自然に学び取って成長していくとわかったので、『青春の1ページ』とできそうな場を1つでも多く作る、言い換えるならば、「思い出のアルバムを色んな写真でパンパンにする」ことをやりがいとしています。生徒が部活動を引退する際、「良い写真があり過ぎて、まとめた動画を作ろうにも選びきれない」と言っていた時は、心底嬉しかったです。

◆青少年に関わる際に心掛けていることは何ですか。

「活動」それ自体よりも、「活動を通して何を学んでもらうか」に重点を置くよう心がけています。頑張っているのは生徒たちですが、頑張れているのは支えてくれる人たちのおかげなので、練習の際には技術的なことよりも、人としてのあり方を伝えることの方が圧倒的に多いです。そうすることで、「恩返しのためにもっと頑張ろう」と、相乗効果を生み出せているように思います。また、「生徒にいったからには、自分も頑張らねば」と自身の立ち居振る舞いでも生徒に示せるように心がけています。

◆青葉区の青少年に向けてメッセージをお願いします。

とにかく、思い出をいっぱい作ることに躍起になってほしいです！何でもいいです！とにかくいっぱい！意味は後からついてきますし、勝手にいつの間にか1つ1つが繋がっていきます！みなさんの青春の思い出作りを応援しています！

青葉おはなしフェスティバル 実行委員会代表
松下 ユウ子 さん

◆今どんな活動をしていますか。

小学校で月2回朝の時間に絵本を読んでいます。また、要望に応じて保育園、幼稚園、老人施設でも本読み、手遊び、紙芝居などをしています。その他、週一回幼児の訓練会・体操教室を手伝っています。

◆今の活動を始めたきっかけは何ですか。

自分のこどもが幼稚園に入り、絵本を聞く楽しさを知り、子育てからだんだん手が離れてきたので、今度は読み手になって一緒に楽しみたいと思い始めました。また、訓練会や体操教室はこどもの少しずつの進歩と成長が素晴らしいと思ったからです。

◆こどもの頃は、どんなこどもでしたか。こどもの頃の夢は何でしたか。

小さく普通のこどもでした。少し大きくなって料理好きの母の影響か世界中の料理を食べたいなと、高校生、大学生になると海外青年協力隊などで働いて、いろんな国の人々と知りあいになりたいと思っていました。

◆やりがいや感動したことを教えてください。

小学校で本を読んでいる時、こども達の目がキラキラ真剣に輝いている姿をみると、「よかったな、お互い今日も一日がんばろうね」と思います。本は知らない世界を教えてくれるので、一緒にもっともっと読みたいと思えてきます。

◆青少年に関わる際に心掛けていることは何ですか。

なるべく、明るく声をかけることです。一人一人に短くてもちょっと一言でも声をかけようと思っています。

◆青葉区の青少年に向けてメッセージをお願いします。

青葉区はいろいろな面で落ち着いていて、よい街だと思います。ここで育った皆さんですから自信を持って、前を向いて生きてください！！

梅が丘自治会 元民生委員 他 幅広く地域で活躍されている
豊﨑 智子 さん

豊﨑智子さんは、元NHKアナウンサーで、梅が丘自治会の民生委員として長くご活躍されました。

現在も、こども食堂のボランティアや高齢者サロン「カエデの会」の運営、認知症サポーター、つつじが丘小学校学校運営協議会委員、さつきが丘地域ケアプラザ運営協議会委員など、青葉区内で幅広く活動されています。

◆ボランティア活動を始めたきっかけを何ですか？

青少年育成や支援の現場を目にし、体験する中で、こどもたちやこどもたちを取り巻く環境、地域に目を向けるようになり、さまざまなボランティア活動に参加するようになりました。

◆こども食堂の取り組みを教えてください。

こども食堂にくるこどもたちに、食材を最大限に活かしておいしく食べてもらうために、毎回メニューを工夫して一品でも多く、彩りも考えて、主婦の知恵を出し合いながら活動しています。

黄色のバンダナをしている方が豊﨑さん

◆やりがいや感動したことを教えてください。

こどもたちの多くの笑顔に出会えることがいちばんのやりがいです。小学校などで認知症サポートの授業をすると、純粋な気持ちで感想を寄せてくれることなど感動して胸がいっぱいになります。

また、こども食堂などでは親子の会話の中で、自然な形で感謝とか挨拶などの躾がさりげなくできていく様子を目にした時、これもこども食堂の大切な役割の1つだと思い、喜びややりがいを感じます。

◆青葉区の青少年に向けてメッセージをお願いします。

あなたたちのことを気にかけてくれている大人は沢山まわりにいるので、声を出して助けを求めることも大事だよ！ そう伝えたいです。

「青指あおば」第50号発行に寄せて

青葉区長　中島 隆雄 さん

「青指あおば」第50号発行おめでとうございます。「青指あおば」に掲載される皆様方の活動や参加するこどもたちの姿を、毎号楽しく拝見しています。

青葉区は来年区制30周年を迎えます。青少年指導員の皆様によるこれまでの青少年健全育成へのご尽力に、心より感謝申し上げます。

そしてこれからも未来を担う多くの青少年に、青葉区に「住み続けたい・住みたい」と思っていただけるよう、区役所も全力で取り組んでまいりますので、引き続きお力添えをお願いいたします。

「青指あおば」第50号発行に寄せて

青葉区青少年指導員連絡協議会会長　越田 美弥子 さん

「青指あおば」は青少年指導員の活動を地域の皆様に知っていただき、また青少年指導員同士の情報交換としてきた広報誌です。当初は白黒で活字が目立つ構成でした（時代ですね）。「いい記事」と自信もって発行しても、沢山の資料から手に取ってもらうのは難しく、少しでも分かりやすく目立つようにカラー化し、写真も多めになりました。

これからも、こどもたちとのふれあいを大切に、広報の皆さんのアイデアと工夫を楽しみにしています。